



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

『匿名なら大丈夫』・・・！？

～一生残る「デジタルタトゥー」、画面の向こうに、人の存在を感じて！～

子どもから高齢者まで、世代を問わず、ネット利用はほとんど当たり前のような時代になっています。しかし、ネット上で拡散されるフェイクニュースが社会不安を拡大したり、誹謗中傷によるトラブルが発生したりと大きな社会問題になっていることは、生徒のみなさんも知っていると思います。

ネット上の誹謗中傷によるトラブルでは、何も落ち度がない人が炎上に巻き込まれて、誹謗中傷的になることがあります。一度拡散された書き込みは削除することが困難で、被害者にとっては一生残る「デジタルタトゥー」になり、最悪の場合は、被害者が命を絶ってしまう痛ましい事件を招いています。

デマの拡散や誹謗中傷に加担する人は、もしかすると「ネットなら足が付かない」「匿名なら何をしても大丈夫」と思っているかもしれませんが、ネット上の行動は、基本的にログ（記録）が残され、個人を識別することが可能で、炎上に参加する行為は、場合によっては、みなさんの人生を人としても法的にも大きく変えてしまうかもしれません。



炎上に参加する多くの人は、軽い気持ちで溜飲を下げているだけかもしれませんが、被害者にとっては一生の問題になりえます。心身への傷はもちろん、一度ネットに書き込まれた書き込みは、拡散・保存され、完全に削除するのはほとんど不可能です。自分の安易な書き込みが誰かの人生を変えてしまうとして、それでもその投稿をしたいでしょうか。

特にSNS上では、同じ趣向を持つ人同士がつながりやすく、顔を合わせては言えないような意見を交換しながら極端に走りやすい傾向があります。また何かに賛同する意見よりも、反対意見のほうが書き込まれやすいといわれています。たとえSNS上で批判的な声が目立っていても、みんなが批判しているわけではないことを生徒のみなさんには知ってほしいと思います。



自分が投稿する前には、世界中から見られ、削除できなくなる可能性があることを思い出し、それでも書き込むのか一度考える時間を持つことが大切です。非公開アカウントであっても、問題となるような投稿が、スクリーンショットなどで友達から流出することは多くあります。結局のところ、ネット上でも、人と人のコミュニケーションであるのは変わりません。たとえ有名人であっても犯罪者であっても、相手はネット上のコンテンツではなく一人の人間なのです。学校でも一人1台端末が貸与され、ネット利用が

ますます増える中、自分の発言には責任が伴うこと、人として社会のルールやマナーに沿って行動するという意識や相手を尊重するという意識を持つことがとても大切だと思います。聡明な生徒のみなさんは、十分理解できますよね。 【総務省 インターネットトラブル ネット記事参照】



【2年生数学少人数での研究授業の様子 Chromebookとプリントを使ったデジタルとアナログが融合したハイブリッド型の授業】